

# 東交通安全情報 No.7 令和8年5月末の交通事故概況(東警察署管内)

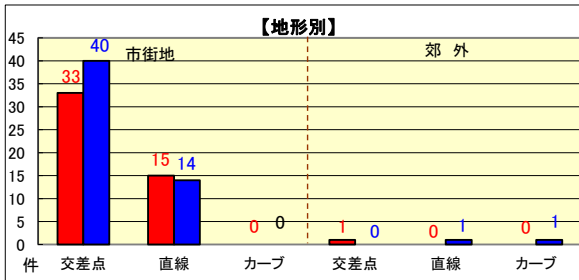
## 【交通事故発生状況】(概数)

区分/月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年	7年	前年対比
人身発生件数	63	74	74	50	49								310	236	74
死者数		1											1	2	-1
傷者数	66	77	86	53	61								343	252	91
物件事故	1,126	990	428	345	375								3,264	2,708	556

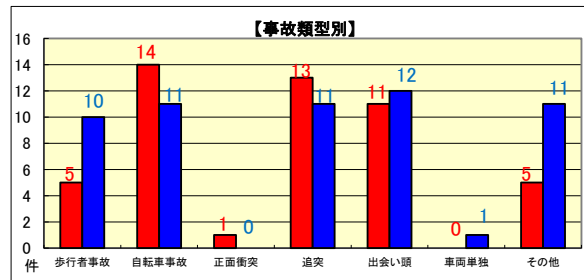
○ 先月と比較して人身事故は僅かに減少したが、物件事故数は増加した。

■ ~ 令和8年   ■ ~ 令和7年

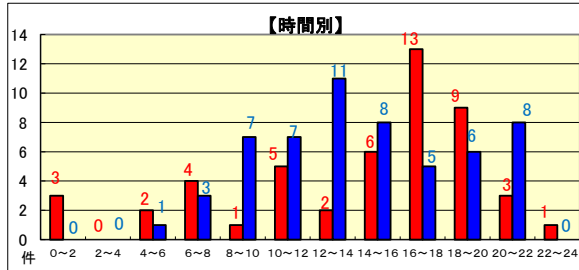
## 人身交通事故の主な特徴(4月中)



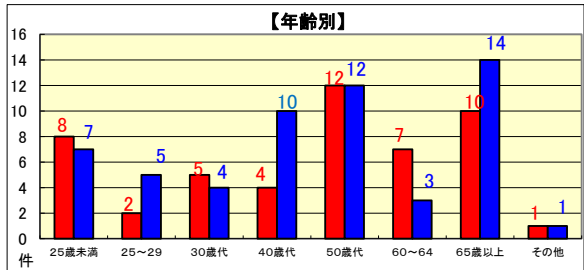
○ 昨年と比べ、市街地直線及び郊外交差点での事故が増加しているが、市街地交差点での事故が最も多く、全体の67.3%を占めている。



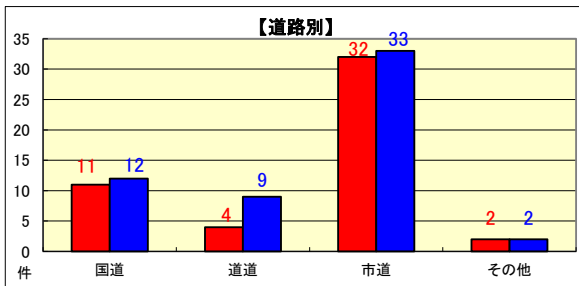
○ 昨年と比べ、自転車事故・正面衝突・追突による事故が増加し、最も多い自転車事故は全体の28.6%を占めている。



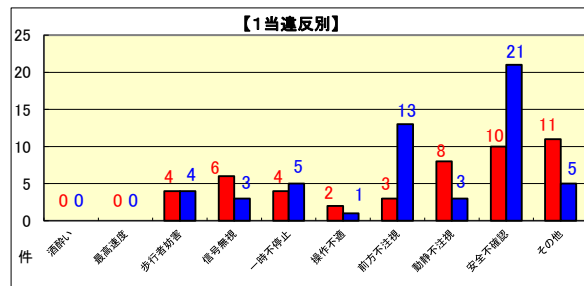
○ 昨年と比べ、12~14時台の事故が大幅に減少しているが、16~18時台の事故が大幅に増加しており、次いで18~20時台の事故が多い。



○ 昨年と比べ、25歳未満・30歳代・60~64歳代の事故が増加し、最も多い50歳代の事故は全体の24%を占めている。



○ 昨年と比べ、各道路別で減少するも、市道での事故が最も多く、全体の65.3%を占めている。



○ 昨年と比べ、信号無視・動静不注意による事故が増加したが、安全不確認による事故が最も多く、全体の20.4%を占めている。



「大丈夫だろう」という油断は捨て、「もしかしたら歩行者が飛び出てくるかもしれない」という危険予測をし、「かもしれない運転」を心がけましょう。